目　　次

口絵
はじめに ……1
目次 ……2
Ⅰ　幕命による信濃国絵図の作成 ……3
Ⅱ　国絵図の作成過程 ……8
　1　元禄国絵図の作成 ……9
　2　天保国絵図の作成 ……11
Ⅲ　刊行国絵図と地誌 ……16
　1　刊行国絵図 ……17
　2　国絵図と地誌 ……22
Ⅳ　絵図から測量図へ ……24
　1　伊能図 ……25
　2　松代封内測量図 ……27
　3　絵図から地図へ ……33
展示資料一覧 ……34
主要参考文献・協力者一覧 ……36

凡　　例

1．この図録は平成10年７月26日から９月６日までを会期とする特別展「信濃国絵図の世界」の展示図録である。
2．図録の番号は展示資料目録の番号と一致するが、展示の順序とは必ずしも一致しない。
3．本図録には収録されていない展示資料もある。展示期間中に一部展示替えを行う。
4．資料名は原則的に原題に準じたが、原題の記載ないものは内容により適宜名称を付した。
5．列品番号の後につけた◉は重要文化財、◎は県指定文化財、○は市指定文化財を示す。
6．法量は原則として縦×横の順序で単位はcm。
7．本文中の敬称は全て略した。
8．本図録の編集、執筆は本館学芸員降幡浩樹が担当し、館員がこれを補助した。
9．本書に掲載した写真は、列品番号２は長野県立歴史館提供、３、５、６、27、28、37、42、43、46、47は撮影業者委託、その他は当館学芸員山口明、降幡浩樹が撮影した。

はじめに

近世は国絵図、村絵図、町絵図、城下絵図、道中絵図などその目的によって様々な種類の絵図が作られ、多くの人が利用した時代です。こうした絵図は、イメージを図にすることを専門とする絵図師や町見師たちによって描かれ、わたしたちに様々なメッセージを伝えてくれます。

国絵図は、16世紀から19世紀にかけて作成された国郡単位の絵図の総称です。中でも官撰国絵図は、幕府が絵図によってその支配領域を空間として掌握することを主な目的に、全国の大名に命じて作成させた一国ごとの手書きの地図で、村名と石高を郡ごとに色分けして描かれています。現在確認されている信濃国絵図は、正保、元禄、天保期の献上図やその控図があります。これらの絵図はいずれも21,600分の１（１里６寸）の縮尺で描かれ、縦約４.５ｍ、横約８.５ｍの大絵図で、城の大広間等に広げて四方から見られるように描かれています。

一方民間においては、出版文化の発達、絵図利用者の増加などにより木版刷りの絵図が刊行されます。こうした民間の版行国絵図は、支配地を掌握するための絵図と違い、信濃の場合は神社・仏閣等への巡拝、旅行案内を主な目的に作られたようです。

江戸時代の人々は、こうした官民双方の国絵図や地誌類を通して、自らの郷土とその国の形を認識したのではないでしょうか。

今回の特別展では、各々の絵図が作られた背景、絵図の作者や利用の仕方などを、絵図との対話を通して考えてみようとするものです。

最後に、貴重な絵図や資料をご出品いただいた関係機関や個人の方々に対して深く感謝申し上げます。

平成10年 7月26日

長野市立博物館長